日本酒で乾杯推進会議レポート

第9回総会・フォーラム＆懇親パーティ開催

100人委員が勢ぞろい。日本文化の発展を祈って、華やかに「日本酒で乾杯！」。

9年目迎える日本文化のルネッサンス運動。さらなる進展へ結束

「日本酒で乾杯推進会議」の第 9 回総会とフォーラム＆懇親パーティが、「日本酒の日」の翌日（10 月 2 日）の午後、東京元赤坂の明治記念館で開催されました。会には、推進会議の一般会員や各界著名人の中核組織 100 人委員会のメンバーらおよそ 500 人が参加。落語や鼎談、全国の日本酒を囲んでの懇親パーティなど盛りだくさんのプログラムを楽しみながら、9 年目に突入する日本文化ルネッサンス運動の進展へ向けて、さらなる結束を誓い合いました。

▲フォーラムでは「酒と芸能」をテーマに桂米團治師匠ら3氏が鼎談

◂落語家・桂米團治師匠の高座熱演でした。

▾熱気いっぱいの 懇親パーティ

会員数3万人を突破。広がる「日本酒で乾杯」の輪

日本酒からの手紙

ニッポン人には日本が足りない、と言われています。
「和服をさりげなく着こなしてみたい」
「ほどよく美しい言葉で語りかけたい」
この国で育まれてきたよき日本文化の数々。
私たちがほんの少し心がけるだけで
まだそれが取りもどせそうです。

日本酒を粋に飲んでみたいと思いませんか。
日本酒は、長い歴史の中でしなやかな感性と
すぐれた技術で磨きあげられてきました。
甘くて辛い「妙味の酒」。
特定の料理を選ぶことなく、心身を癒し、ご縁を
つなぎ、和（なごみ）に酔うお酒です。

あらたまった礼講からにぎやかな無礼講に移る
とき、私たちは乾杯します。
「みなさまのご発展とご健勝を祈念して…」
何に向かって祈るのでしょうか。
カミ様？ ホトケ様？ ご先祖様？
ニッポン人の心の奥底に宿るものとふれあうとき、
新たな力がうまれるはずです。

これからの人生をますます豊かなものにする
ために…。
日本酒で乾杯！

各地で見られる「日本酒で乾杯」のシーン

「日本酒で乾杯する」という行為を通じて、日本文化そして日本酒への誇りを取り戻そう－そんな熱い思いを込めて平成 16 年 10 月に始動した日本酒で乾杯運動。丸 8 年間の運動の成果は着実に根付き始めており、推進母体である「日本酒で乾杯推進会議」の会員数は 3 万人を突破したほか、中核組織「100 人委員会」も活動全開（別項）。様々な会合やパーティの初めに「日本酒で乾杯！」するシーンが各地で見られるようになっています。

年に一度の「結束と懇親」の場

「総会・フォーラム＆懇親パーティ」は、そんな運動の現状を確認し、新たな一年のスタートに向けて関係者全員の結束を固めるために毎年開催されているもの。今回も和文化の香り漂う明治記念館を会場に、『酒と芸能Ⅳ』をテーマにした落語鑑賞や鼎談、懇親パーティでの歓談などを通じて、熱気あふれる懇親風景が繰り広げられました。

まさに日本文化。明治記念館の佇まい

多彩な活動を繰り広げる各界著名人の中核組織「100 人委員会」

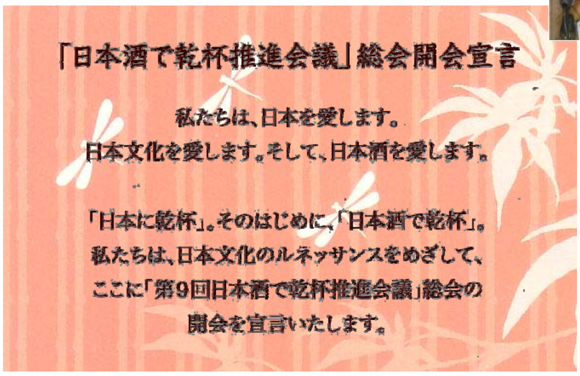
運動の主旨に賛同した文化、芸能、スポーツなど各界の有力者により結成された中核組織。代表は石毛直道氏（国立民族学博物館名誉教授）。メンバーは現在 93 名。年 1 回開催する委員会での意見交換や、推進会議の専用ホームページ（http://www.sakedekanpai.jp/）へのコラムの寄稿などのほか、各自の専門分野での支援活動などを展開しています。また、2007 年に出版した『乾杯の文化史』はユニークな文化論として幅広い注目を集めました。

第9回総会の模様

「日本文化、そして日本酒を愛します」開会宣言でスタート

総会（16:00～16:30）は、100 人委員会の一人で『日本の酒造り唄』の著者・阪田美枝さんによる開会宣言でスタート。100 人委員会の石毛直道代表の挨拶、日本酒で乾杯推進会議運営委員会の西村委員長の活動報告に続いて、恒例の表彰式（運動に功績があった地域の個人・団体への表彰）では、今年の受賞団体・佐賀県地酒愛好会に石毛代表が感謝状と記念品を贈呈し、その功績を称えました。

阪田美枝さんの「開会宣言」（下）に、出席者全員が唱和して、「日本文化ルネッサンス」実現への結束を再確認。



「日本酒で乾杯推進会議」総会開会宣言

私たちは、日本を愛します。
日本文化を愛します。そして、日本酒を愛します。

「日本に乾杯」。そのはじめに、「日本酒で乾杯」。
私たちは、日本文化のルネッサンスをめざして、
ここに「第9回日本酒で乾杯推進会議」総会の
開会を宣言いたします。

「日本酒文化を育んできた日本酒のおいしさを、アルコール離れの進む若者たちにきちんと伝えるのが私たちの役目」と、石毛代表が挨拶。

西村運営委員長は「当面の目標だった会員数 3 万人を達成した」ことを報告。次の目標 5 万人へ向けて、さらに「日本酒で乾杯！」が広まるように、運動はこれからが正念場。

佐賀県地酒愛好会は、地酒の振興と会員の親睦を目的に平成 18 年に発足。例会の始まりは必ず『日本酒で乾杯』するのが決まりです（写真右が 田中丸善吉副会長）。

総会の最後は、第 2 回「フォトコンテスト」の入賞者発表。今回は応募 84 点の中から、大阪府の平木吉彦さんの作品（右）が大賞を受賞しました（他に入賞 3 点・佳作 8 点）。

フォーラムの模様

上方落語のホープ桂米團治師匠が熱演。「酒と芸能」をテーマに楽しい鼎談

「『酒と芸能Ⅳ』～日本のかたち、日本のこころ～」をテーマに行われた今回のフォーラム（16:35～18:15）。取り上げられたのは上方落語の世界です。冒頭、日本酒で乾杯推進会議の石毛委員長が上方落語の歴史などを解説した後、若手のホープ桂米團治師匠が古典ネタの「替わり目」を熱演。続いて、桂米團治師匠と、100 人委員で民俗学者の神崎宣武氏、推進会議運営委員の南部隆保氏（福井県酒造組合会長）の 3 人が、落語と酒、さらには酒と伝統行事などをめぐって縦横に話を展開し、参加者を魅了しました。

「替わり目」は、酒好きの亭主と世話女房をめぐる、おかしくも心温まるお話。日本酒抜きで日本の話芸はあり得ない、そんな思いを改めて実感できる一席でした。

3 氏の楽しいやり取りに、感心したり、笑ったり。

「昔は産湯に日本酒を入れたし、お正月はお屠蘇で祝った。人生のはじめ、年のはじめにお酒があったことの意味をもう一度考え直してみたい」（神崎氏）

「日本人に國酒・日本酒をもっと愛して、飲んでもらいたい。乾杯というセレモニーの中で、日本酒と触れる機会をもっと作ってほしい」（南部氏）

「運動を進めるために、乾杯専用の低アル日本酒を開発したら？。若い女性が日本酒で乾杯し、もっと日本酒を飲むようになったら、必ず男は付いてきます」（米團治師匠）

懇親パーティの模様

新たな 1 年のスタートへ、日本酒と料理を囲み懇親のひと時

最後のプログラムとなった懇親パーティ（18:30～20:30）では、はじめに 100 人委員会のメンバーが鏡開きを行なった後、塩川正十郎氏のリードで、参加者全員が高らかに「日本酒で乾杯！」。参加者は、およそ 70 銘柄日本酒と全国各地の素材を使った明治記念館特製のメニューを味わったり、協賛 6 団体のブース（次頁）を回ったりして、新たな 1 年のスタートへ懇親のひと時を楽しみました。

100人委員による鏡開きで、懇親パーティの幕開け

▸ 極上の日本酒と豪華な料理が次々に供されて、パーティは最高潮に。「知り合いに誘われて、初めて参加しました。こんなに豪華なパーティだなんて驚き。お酒も料理も大満足」（女性参加者）。また、会場の一画には推進会議の会員募集コーナーも設けられ、新規登録を済ませたある女性は「登録した理由？日本酒で乾杯が当然だと思うから。日本酒は世界に自慢できるお酒です」と、熱い眼差しで語ってくれました。

◂ パーティの最後には、中央会の篠原会長が中締めの挨拶。「日本文化、そして日本酒の復興を願ってもう一度みんなで乾杯しましょう」という言葉に合わせ、参加者全員が元気いっぱいに乾杯三唱の盃を掲げました。

新規に会員登録する参加者も

▼100人委員のピーター・バラカン氏を囲んで

日本酒で乾杯推進会議

第9回総会・フォーラム＆懇親パーティ

交歓の風景

明治記念館

20012/10/02

みそ健康づくり委員会　　全国かまぼこ連合会　　全日本漬物協同組合連合会

全国珍味商工業協同組合連合会　　全国米菓工業組合　　静岡県茶商工業協同組合